



キャンパスでは、看護学を学ぶ学生の様子も視察しました。続いて午後には、「オダネルデンプシー・シニアセンター」へ。エリザベス市内4カ所にある高齢者センターは、55歳以上ならどこで

も利用可能。特にこの施設では、エクアドル、メキシカン、スパニッシュなどヒスパニック系の高齢者が多く利用しており、次々とダンスや歌を熱演して最高の歓迎会。元氣な芸達者であふれていました。

これが長生きの秘訣とか。またこの日は、宣教師ピアノン夫妻が所属していた「ウエストミンスター長老派教会」で、姉妹都市50周年の記念礼拝に参列、正真正銘のゴスペルソングの歌声に感動！鳥肌が立ちました。

そして、いよいよ50周年記念祝賀会が、午後7時からアフリカンドラミング・太鼓の演奏からスタート。クリシュナ局長歓迎の挨拶に続き、日米両国歌斉唱。ダレイソン牧師が祈りを捧げて、ブッフエスタイルのディナータイム。お国柄、お料理も多種多様なごちそうが並んでボリューム満点です。

小1時間の晩餐の後、ボルウエッジ市長と辻市長の間で贈り物の交換の挨拶。ナンシー夫人と千草夫人との挨拶、姉妹都市交流の功労者故サームイ氏の一族など、50周年を祝うメッセージを次々と披露し、可愛い子どもたちによる花まつりのメキシカンダンスや情熱的なブルトリコのダンスと宴はまだまだ続きます。そろそろお開きの時間かと思いきや、会場の一角に設けられた50周年記念写真コーナーで、市長とのツーショット、親しくなった者同士等、仮装も交えたメモリアルフォトタイム。そして、最後は女性陣によるディスコダンス。もちろん私も加わりました。歌って踊って祝賀会は最高潮で幕を閉じました。

3日目には、エリザベスポート長老派こども園やエリザベス第30小学校を訪問して、学童らによるコーラスと吹奏楽演奏を鑑賞。また、エジソン高校日本文化体験教室では、団員が講師になってお弁当作りを体験してもらいました。さらに、1750年建設の木造



写真／左右にピアノン記念館の写真を投影して姉妹都市50周年の記念礼拝。

ルのディナータイム。お国柄、お料理も多種多様なごちそうが並んでボリューム満点です。

小1時間の晩餐の後、ボルウエッジ市長と辻市長の間で贈り物の交換の挨拶。ナンシー夫人と千草夫人との挨拶、姉妹都市交流の功労者故サームイ氏の一族など、50周年を祝うメッセージを次々と披露し、可愛い子どもたちによる花まつりのメキシカンダンスや情熱的なブルトリコのダンスと宴はまだまだ続きます。そろそろお開きの時間かと思いきや、会場の一角に設けられた50周年記念写真コーナーで、市長とのツーショット、親しくなった者同士等、仮装も交えたメモリアルフォトタイム。そして、最後は女性陣によるディスコダンス。もちろん私も加わりました。歌って踊って祝賀会は最高潮で幕を閉じました。

3日目には、エリザベスポート長老派こども園やエリザベス第30小学校を訪問して、学童らによるコーラスと吹奏楽演奏を鑑賞。また、エジソン高校日本文化体験教室では、団員が講師になってお弁当作りを体験してもらいました。さらに、1750年建設の木造

建築物・ボックスウッドホール州立史跡。エリザベス図書館（前号で報告）やピアノン夫妻の眠るローズデール墓地にお墓まいりをした後、ケイン大学を訪問して夕食をとりながら交流を深めました。最終日には、高級車フェラーリ・ディーラーシップを訪問。ニュージャージー州議会では地元選出のホーレイ議員も同行して、州議会議場を見学し議会食堂で昼食。午後からクロッシング・ワイナリーで10種類のワインを試飲しました。訪問団の仕上げは、エリザベス港から船に乗り、ニューヨーク



写真左／子どもたちの愛らしさは万国共通。

市内の夜景、自由の女神を見学する就航記念ナイトクルージングツアー。夕焼けの時間帯から夜の夜景時までの長時間のクルーズに北見市訪問団一同、大感激でした。まだまだ、この紙面上では伝えきれないほど多くの感動をエリザベス市の皆様からいただきました。何よりの宝物は、パーキンス議員やボルウエッジ市長夫人、市職員の方々とフェイスブックでその後もメッセージ交換をしながらつなぐり続けていることです。今回の北見市訪問団の派遣に係り、記念事業実行委員会事務局の皆様、エリザベス市側との連絡調整や通訳として唯野則幸氏にたいへんお世話になりました。改めて感謝とお礼を申し上げます。これからの世代が両市の平和と友好のつながりをしっかりと引き継いでいただけますよう心からお祈りします。(未完)



「またいらっしやい!!」と自由の女神が語りかける。

※【編集人より】訪問記は第89号1回の予定で掲載しましたが、多くの方々からの要望もあり、今回（下）として加筆をお願いいたしました。また、今後の予定として、長南部会長の報告講演を計画いたします。

# 「ニュージージーランドからの便り」第20回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2020.1.19 (12:02)

◆お元気でよい新年を迎えられたことと思いますが、しばらくご無沙汰なので、どのようにしておられるかと。メールアドレスが変わるとのことを思い出し、受信欄を整理していたところ、新しいアドレスからの未開封メッセージ複数

が、《迷惑メール》の中に入っていました。担当部門へその旨申し入れたところ、全部が消去されました。再度送信できるでしょうか。

◆このメッセージが届きますように。◆今は、南下してワンガヌイにいます。今年のプラムはほんのわず

か木にありますが、リングはかなりの多くできて、3月末には収穫でき

るでしょう。◆今週末は、ワンガヌイで周年の特別イベントのあるウィーク

エンドです。昨日は、メインストーリーのクラシックカーを並べまし

◆明日、ファンガパラオアへ向かいます。

2020.1.19 (12:26)

◆元のアドレスへメール送信しようとしても通じなかつたところへ、ちようど、そちらの新しいアドレスからメッセージが届きました。それで、さつき送信できなかったのを転送します。

◆ニュースもわかり、また、ドナルド・キーンの本や最新のピアソン便りを送ってくださるとのこと、受け取るのを楽しみに待っています。

◆とても楽しいクリスマスと新年でした。姉のところの全員の子供たちや孫たちが集まり、姉夫婦の金婚式を祝い、スペシャルランチを食べました。

◆返信ありがとうございます。こちらのメッセージが無事届いて安心しました。オークランドの弟のところへ泊まって、ファンガパラオアへ戻ってきたところです。

◆昨日ワンガヌイから北上しましたが、結構長いドライブでした。途中、ニュープリムスの従姉妹マーガレットのところへ寄りました。88歳ですが、活動的で、健康です。

◆ここでは全てが順調ですが、暑く、乾燥しています。庭の睡蓮の池が、ほとんど干上がりそうです。

◆小包が届いていました。ありがとうございます。皆さんの集まりが楽しいことでしょう。どうぞよろしくお伝えください。

## 『北海道の歴史文化発信事業』

【事業の目的】

北海道一五〇年事業の基本理念である「歴史や先人の偉業を振り返り感謝し、次の50年に向けた北海道づくりに継承」に資するため、本道独特の歴史や文化について、それぞれの時代や地域と深く結びついた「先人」に着目して発信することで、先人ゆかりの地への周遊意欲を喚起し、本道の歴史・文化継承の中心となるコアな北海道のファンづくりを図る。(北海道)

右記目的のために、昨年11月より北海道開拓に尽力された先人一〇〇名の「先人カード」が作成され、該当各所で利用者へ配布する事となりました。来館者一人に対して1枚提供しています。



写真右/表面。写真左/裏面。



\* 詳しくはピアソン記念館まで。

## 驚「ピアソン学事始め」

10

この「ピアソン学事始め」は、18年前に北見の情報誌に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

### (10) 東京でのピアソンさんの生活

ピアソンは東京の明治学院へ神学者として派遣され、中等部で英語、神学部で新約聖書釈義と教会暦学、さらに学生の舎監を勤めていた。しかし、彼は来日十日目から腸チフスを患い、生死の境を約一ヶ月間さまようことになってしまいました。その経験が後日明治学院を去って、結果的には伝道生活に入る原因であった、といわれていますが、明治学院での生活は二年半で終わることになります。

ピアソンの晩年の回想で、一八九〇(明治23)年、『日本の国家主義が台頭し、あなたがたが日本に送った僕はもう明治学院ではいらなくなった(田舎伝道者)』と記していますが、そればかりでなく、大学で教えることより、日本の奥深く伝道の旅に出ることも強く望んでいたようです。それは、明治学院の生活でも、日本語の勉強を徹底的にし(大学内での生活では、それほど日本語を習得しな

くても良かった)、皇室の通訳に招聘されるほどになっていた、というところからも理解できます。

明治学院時代のピアソンさんらしき人物が、ある有名な文豪の小説の中に出てきています。それは、島崎藤村の『桜の実の熟する時』という作品で、次のように書かれています。「時には歴史科を受け持つ頭のはげたアメリカ人の教授が主任のライブラリアンとして見廻りに来る」と書かれております。調べてみますと、ピアソンさんは図書室の管理もしており、またプリンストン神学校卒業の写真で見られるように、若いうちから頭髪が少なくなっていましたので、藤村には深く印象に残ったのかも知れません。

写真左/若い頃の島崎藤村。



# ピアソン夫妻資料収集記 (10)

ピアソン会理事 玉置 義弘

ピアソン便りへの連載も10回目になりますので、今回で一旦終了とさせていただきますと思います。そんなわけで今まで調べてきたことの「落ち穂拾い」的なことを、今回は書いてみたいと思います。

最初にアイダ・ゲップの弟ルド

ルフ・マックス・ゲップ (Rudolph Max Goepf) の歿年月日が不明でしたが、連載の終了までに資料が見つかり判明しました。彼はニューヨーク・タイムズの死亡記事によれば、脳出血で1950年5月18日に83歳で亡くなったと書いてありました。ですから彼の生没年は1866年10月31日〜1950年5月18日となります。またペンシルベニア大学の医学部長などを努めたり、大手保険会社エトナや第一ナショナル銀行の医療コンサルタントをしていたと書いてあり、フィラデルフィアの名士の一人で



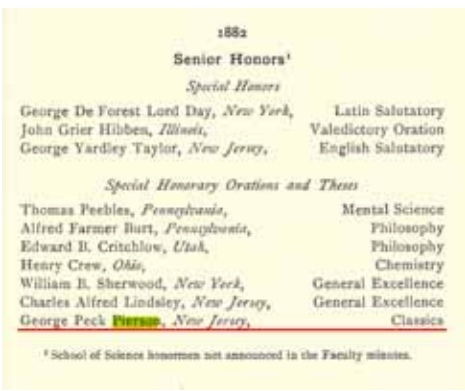
写真上／Rudolph Max Goepf

妹の結婚相手ヒゲロー (William Smith Bigelow 1867-1930) の母親は、名門ダートマス大学の総長を務めた牧師アサ・ドッジ・スミス (Asa Dodge Smith 1804-1877) の娘でした。ヒゲローは卸売商をしていましたが、家族でバハマ諸島へ旅行したなどの記録があり、裕福な生活をしていたよう

です。ピアソン宣教師の兄のデビッド (David Harrison Pierson, Jr 1854-1940) は銀行員でしたが後にデトロイト・アンド・マッキノー鉄道の取締役に就任した記録 (1837年) がありました。銀行でも頭取という立場にいたようです。アイダ・ゲップがニューヨークのノーマル・カレッジを卒業した時に表彰された記録がありました。ピアソン宣教師もプリンストン大学で表彰を受けた記録も見つけることができました。

1748年から1901年までのプリンストン大学の学業部門表彰記録があり、ピアソン宣教師は1882年の卒業時に古典文学で賞を受け、卒業式で演説をしたと記録されています。

ピアソン宣教師夫妻は日本から帰国した後、フィラデルフィアに



写真右／卒業時の学業部門表彰記録。

住みウエストミンスター神学校で教鞭をとったと記録にありますが、帰国後の生活が詳しく分かる資料がまだ見つかっていません。今後の課題と考えています。

今回の私の調査はインターネットを使って一次資料

の収集を目的に行いました。特にピアソン宣教師夫妻の個人的な情報が確認できたことに驚きました。アイダ・ゲップの第二人の詳細な記録や、ピアソン宣教師の家族について、また夫妻の学生時代の記録など、国勢調査やパスポート関係以外は、全米各地の大学図書館の蔵書をデジタル化して公開しているものから見つけました。当然、蔵書のデジタル化は現在も進行中なので、今後もさらに新しい資料が出る可能性がありますので、随時、ピアソン便りで紹介したいと思います。

〜完〜

## 広告見本

年6回掲載で、年額10,000円です。

30 ミリ  
×  
50 ミリ

## 編集後記

2020年を迎えました。昨年はエリザベス市との姉妹都市提携50周年記念の年でもあり、多種多様なイベントがありました。ピアソン会としては理事者一同、北見市と協力しながら実りのある交流ができたのではないかと感じております。これも北見市民・関係者及び関係団体の熱意で実現できたものと感謝しております。

本年から、会員・関係団体などへの年賀状の発送は中止としました。お許しください。そのかわりホームページで年賀の挨拶を表示しました。ほんの少しですが経費節減です。雪の少ない不思議な冬となっております。負の影響がないように祈っておりますが、心配です。

今年も東京オリンピックの年。また忙しい年となるようです。会員の皆様のご協力をお願いいたします。(理事兼事務局長) 伊藤 悟

よっしーへ!!  
ある基なめがね、機能的なめがね、お気に入りが見つかります。  
ザンクラス、アイファッション用品、めがねの修理も承っています。

よっしーへ!!  
めがねのよっしー

〒090-0043  
北見市北三条西3丁目  
TEL:0157-57-3664  
定休日/毎週水曜日  
営業時間/10:00~19:00